

平成 29 年(2017 年)7 月 10 日

豊中市長

浅利 敬一郎 様

豊中市総合計画審議会

会長 加藤 晃規

第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について（答申）

平成 29 年(2017 年)1 月 31 日に本審議会に諮問された、第 4 次豊中市総合計画前期基本計画（素案）について、審議結果を別紙のとおり答申します。

**第4次豊中市総合計画
前期基本計画(素案)について**

(答 申)

平成 29 年(2017 年)7月

豊中市総合計画審議会

目次

I. 答申にあたって	1
II. 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）への意見	2
III. 審議経過・審議会委員	5

<参考資料>

- 第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）

1. 答申にあたって

豊中市は、少子高齢化の進行やライフスタイルの変化など複雑多様化する行政課題に対応するため、「第3次豊中市総合計画」を見直し、新たな総合計画の策定を進めています。

豊中市総合計画審議会は、「第4次豊中市総合計画」の策定に向け、平成28年(2016年)9月20日に、浅利市長から「基本構想(素案)」の諮問を受け、平成29年(2017年)1月31日に答申を行いました。また、同日に、浅利市長から「前期基本計画(素案)」の諮問を受けました。

当審議会では、「前期基本計画(素案)」の審議にあたって、限られた時間の中、集中的に審議するため、2つの専門部会を設置し進めてきました。専門部会では、市内で活発に活動している市民活動団体等の皆さまからアンケートによる意見聴取を行うとともに、15団体の皆さまには会議にご参加いただき、豊中市の現状や課題、今後必要な取組みについて意見交換を行いました。

審議においては、「基本構想(素案)」で答申したまちの将来像「みらい創造都市とよなか ～明日がもっと楽しみなまち～」の実現に向け、平成30年度(2018年度)から5年間で起こりうる社会の動きを考慮して、意見を取りまとめています。

前期基本計画の策定にあたっては、当審議会の意見を十分に踏まえ検討していただくことをお願いするものであります。

平成29年(2017年)7月10日
豊中市総合計画審議会
会長 加藤 晃規

II. 第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)への意見

基本構想(素案)に掲げる「まちの将来像」の実現にあたっては、庁内各部署の連携や市民・事業者など多様な主体との協働と、限られた資源配分で効果的・効率的に施策を展開することが必要です。

当審議会は、平成30年度(2018年度)から5年間で取り組む前期基本計画(素案)の施策と、リーディングプロジェクトが「まちの将来像」の実現につながる内容になっているかという視点で審議を行いました。

諮問された前期基本計画(素案)は、重点的な取り組みとしてリーディングプロジェクトを置くとともに、多様化・複層化する行政課題に対応するため、施策を整理するなど、時代の変化に対応した計画となっています。

その他の内容について、以下のとおり、審議した結果をとりまとめましたので、意見として申し述べます。

◆全体

1	基本構想で示された各章の考え方を、前期基本計画においても示す必要がある。
2	連携している施策の関係性を示す必要がある。
3	「市民・事業者の主な取り組み」は、市民・事業者のまちづくりへの意識づけにつながる表現にする必要がある。

◆施策について

1	【1-2 保育・教育の充実】 障害のある子どもの学校におけるケアとして、主な取り組み「ともに学ぶ教育の推進」に保健・福祉との連携の視点が必要である。
2	【2-1 自立生活支援の充実】 豊中市の地域力・市民力を活かし、市の取り組みとともに市民で支えあいながら生活の自立につなげていく必要がある。

3	<p>【2-1 自立生活支援の充実】 福祉の分野において、これまで豊中市が培ってきた日常生活圏域を基盤に推進していく必要がある。</p>
4	<p>【2-1 自立生活支援の充実】、【2-2 保健・医療の充実】 福祉・保健・医療が協力・連携して包括的に対応していく視点が必要である。</p>
5	<p>【3-4 良好な住環境の形成】 「住環境」が住居周辺のイメージなので、千里中央駅周辺などの都市の拠点づくりを包含する名称にする必要がある。</p>
6	<p>【4-1 共に生きる平和なまちづくり】 DV被害者の緊急時における対処の視点が必要である。</p>
7	<p>【5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり】 民間同士の連携や民間団体が活動しやすい環境づくりを支援する必要がある。</p>
8	<p>【5-1 情報共有・参画・協働に基づくまちづくり】 市民公益活動団体が活動を継続的に行うためには、資金と人材の充実が必要である。従来の方策にとらわれない支援を市民公益活動団体と協働で推進していく必要がある。</p>
9	<p>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】 これまで市が市民と接してきた業務を民間が行うようになってきているので、市民ニーズや地域社会の課題に向き合う職員の育成が必要である。</p>
10	<p>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】 景観、文化、芸術などの地域資源を活かしながら、さらなる魅力を創出し市内外に発信することが豊中市の観光にもつながるので、これまでの取組みを推進し、まちの価値を高める必要がある。</p>
11	<p>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】 市外の人が豊中市を選び住んでもらえる取組みが必要である。</p>
12	<p>【5-2 持続可能な行財政運営基盤の構築】 豊中市では行政運営の基盤がすでにできているので、次のフェーズの施策名称にする必要がある。</p>

◆リーディングプロジェクトについて

1	建物の老朽化や人口の流出など客観的データによる分析が必要である。
2	南部地域の人口減少の要因分析を、十分に踏まえた取組みにする必要がある。
3	南部地域限定の取組みを示す必要がある。
4	リーディングプロジェクトを着実に進めていく庁内体制を検討する必要がある。

Ⅲ. 審議経過・審議会委員

◆ 審議経過

回	開催日程	内 容
平成28年度 第4回 総合計画審議会	平成29年(2017年) 1月31日(火)	第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の諮問 ・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の構成とリーディングプロジェクトの審議
第1回 第2専門部会	2月9日(木)	・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の第3章、第5章に係る市民活動団体等との意見交換
第1回 第1専門部会	2月11日(土)	・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の第1章、第2章、第4章に係る市民活動団体等との意見交換
第2回 第1専門部会	2月21日(火)	・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の第1章、第2章、第4章の審議
第2回 第2専門部会	2月23日(木)	・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の第3章、第5章の審議
平成29年度 第1回 総合計画審議会	5月12日(金)	・第4次豊中市総合計画前期基本計画(素案)の審議 ・答申案の審議

※平成28年度第1回～第3回の豊中市総合計画審議会は、第4次豊中市総合計画基本構想(素案)の審議を実施。

◆ 審議会委員

会長◎・職務代理者○（区分順・敬称略）

	区分	所属等	名前	専門部会
1	学識経験者	関西学院大学 名誉教授	◎ 加藤 晃規	部会長
2		関西大学文学部教育文化専修教授	○ 赤尾 勝己	第1
3		大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授	赤井 伸郎	第2
4		豊中商工会議所 名誉会頭	國貞 眞司	第2
5		大阪大学大学院 人間科学研究科 教授	斉藤 弥生	第1
6		関西学院大学総合政策学部 准教授	宗前 清貞	第2
7	公募市民		大澤 嘉騎	第1
8			廣瀬 淳	第1
9			廣瀬 史朗	第2

※豊中市総合計画審議会規則第8条第3項に基づき、会長が専門部会の部会長となる。